

# オープンな移動支援プラットフォーム実現に向けた INIADの取組みについて

**坂村 健**

**SAKAMURA Ken, Ph.D.**

INIAD TOYO (東洋大学情報連携学部) 学部長

Dean of the Faculty

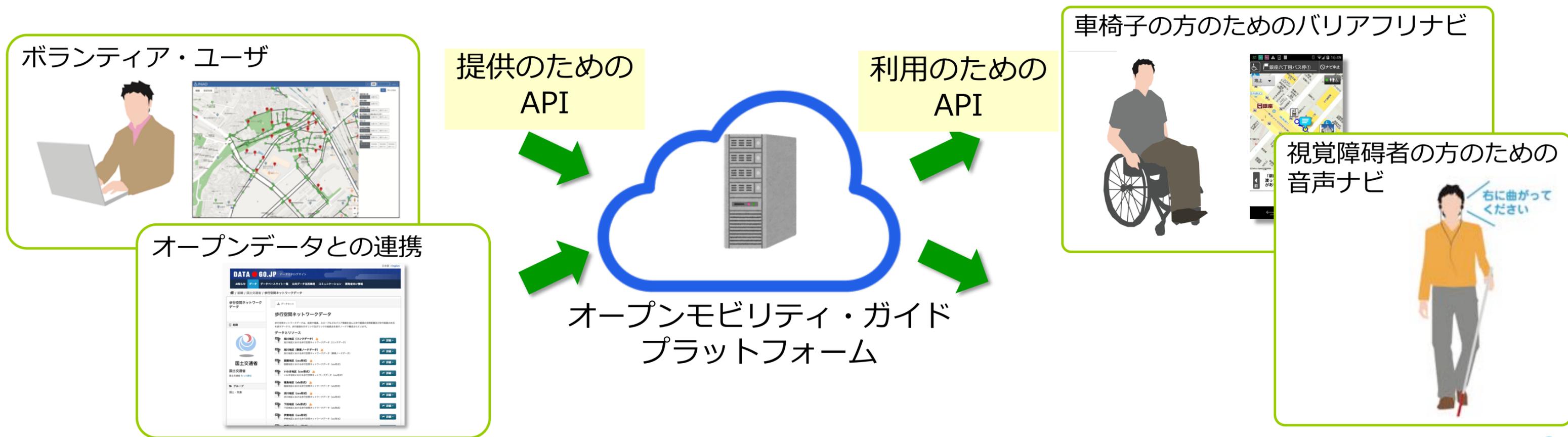
# INIADプロジェクトのゴール

- 行政、ボランティア、利用者が協力して、移動支援のためのデータを収集・整備するための、オープン・プラットフォームを実現する



# INIADプロジェクトのゴール

- 様々な人々、様々なシステムと連携できる「オープンなプラットフォーム」を構築し、行政、ボランティア、利用者が協力して、バリア情報を継続的に収集・整備する体制を実現する
- プラットフォーム構築に際してはオープン・アーキテクチャ方式で進め、特にAPI (Application Programming Interface) レベルのオープン化を目指す



## 取組例①

# INIADバリアフリーマップ作成実習（2017年～）

- INIADの1年生の「情報連携実習」の一環で、東京都北区赤羽台周辺において、オープン方式の歩行空間ネットワークデータ作成のフィールドワークを継続的に実施
  - 約400人の学生が5人ずつのチームを作り、エリアを決めて国交省仕様の歩行空間ネットワークデータ作成を実施
  - チームでのバリアフリーマップの作成を通じて「他者との連携」を学ぶ教育的な狙いもあり、学生が自主的にツールを開発した例も



## 取組例②

# オープン方式の編集ツールの研究開発

- 国土交通省仕様の歩行空間ネットワークデータを共同編集するためのAPIと、それを利用した編集ツールを開発し、バリアフリー作成実習の中で活用
- 多数（400人）の参加者が協力してデータ作成を行うことが可能であることや、スマートフォンなどのモバイル端末でデータ入力が行えることを実証



2cm以上の段差を注意するモード



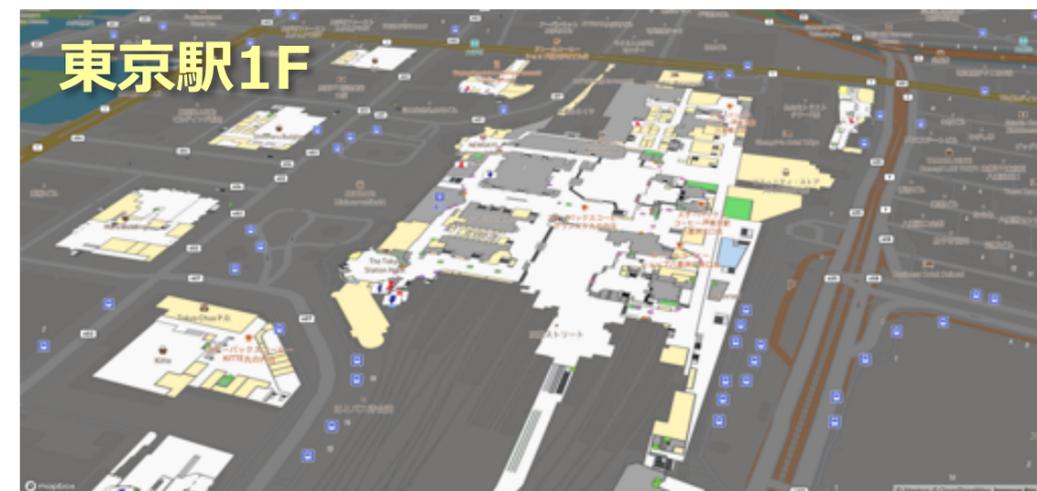
5%より大きな勾配を注意するモード



### 取組例③

## 駅構内地図配信サーバの構築

- 国土交通省がオープンデータ化を進める駅構内図の積極的な活用を促すために、地図配信サーバを構築
- 国土地理院の定める「階層別屋内地理空間情報データ仕様書（案）」に準じた形式で駅構内図を、アプリケーションからの活用が容易なWMS(Web Map Service)形式で配信するサーバを構築



## 取組例④

## 公共交通オープンデータ協議会との連携

- 2019年5月より公共交通オープンデータセンターを立ち上げ、公共交通事業者とデータ利用者を結ぶデータ連携プラットフォームの実現を目指す
  - 鉄道、バス、航空、フェリー等の公共交通データを、一般の開発者やICT事業者（経路探索事業者等）にワンストップで提供
  - 営利目的の乗換案内サービスへのデータ提供も開始
- 東京公共交通オープンデータチャレンジの結果発表・表彰式を、小池百合子東京都知事を招き、INIADにおいて開催

